

# 法親寺新聞

2016年 春彼岸号  
手書き新聞 No.21

こんにちは。釋 紗音です。  
今年も春のお彼岸がやってきましたね。  
「彼岸」とは、さとりの世界である「浄土」のことです。お浄土へ参られ、仏様となっておられるとき方に再びお浄土で出会う為には、私達も阿弥陀様の救いの目当てになり、仏様にならせていただかないといけません。  
私達が救われ、仏様になれる道は、阿弥陀様のご本願によるしかありません。仏法を聴聞することで、すでに救いの中にある私であったと気付かせていただくことができます。  
生きている「今」から、命が終わった後の行き先が分かっているのは、安心ですね。阿弥陀様のお慈悲の中に抱かれていることをよこび、お念仏いたしましょう。

① お参りして頂いて、お参りしたお参りが男前だと言われたよ。

② 最近でも頭がうすくなってきたよ。

③ げ!おとん!

④ 凡夫は自分の立場でしかものを見ませんね。でも阿弥陀様は温かくはぐくんで下さいます。

住職の法話  
親鸞聖人は仰せになる。凡夫といふは、無明煩惱われらが身にみちみちて欲もおほく、いかりほらだち、そねみねたむ、こころおほくひまなくして、臨終の一念にいたるまでとどまらず、ぎえず、たえず「一念弥陀念文意」

私たちは自己中心的にしか物事を見ることのできません。人の幸せを私の幸せと感じることができれば、私の幸せは2倍になります。しかし、これは理屈の上のことであって、実際は嫉妬心から人の幸せをいかに喜ぶことができません。  
うらやんだり、ねたんだりする心が起ります。  
また、自分より優れていると感じる人には劣等感、自分より劣っていると感じる人には優越感を抱き、劣等感と優越感を行ったり来たりしています。  
そして、そんな心が差別や偏見、いじめを生じさせます。  
しかし、真実の教え、真実の光に照らされると私自身が明らかになります。それは仏の智慧を授かるからです。  
無常の中に生きる私であった、自己中心的な私であつたと知らされ、智慧の眼に目覚め、仏の智慧が私に届いていることを実感することになります。欲望が満たされないことへの不平不満の毎日であつた私、感謝と歓喜の私へと転換され、仏(名号)の働きが、称名という形となって私の心から念仏となり称えられるのです。



ゆるキャラあつお ↓

熱海

熱海の景色は、昼はもちろん夜もライトアップが綺麗でした。

450本以上の木々が植えられて、尾崎紅葉の「金色夜叉」の「貴一とお宮の像」。

浄土真宗はなぜ清め塩をしないのですか?

浄土真宗は、死をけがれとし、ないからです。亡くなった方は仏様になられたのですから、清める必要はありません。生前は親しくしていたのに、亡くなったからといって、けがれた扱いができるのなら、そんな自分自身の心を清めるべきかもしれません。

御正忌報恩講法要  
1月11日(月)

お寺での御正忌報恩講法要が勤行されました。お天気にも恵まれ、沢山の方々が参りされました。正信偈を皆様とお勤めし、田圃真師、住職の法話を聴聞しました。

本願寺 通夜布教  
御正忌報恩講法要

親鸞聖人の祥月命日をご縁に毎年1月9日から1月16日まで勤められる「御正忌報恩講法要」に参らせていただき、15日の通夜布教と16日の御満座のご縁にありました。

お知らせ

釋里蓮 お待ちしております!!

春季永代経法座

- 日時●平成28年 4月16日(土)午後1時～
- 場所●法親寺本堂
- 法話●黒田真隆師(兵庫県宍粟市安楽寺住職)